

The report of the international exchange program for junior high school students 2018.

Wonderful Days



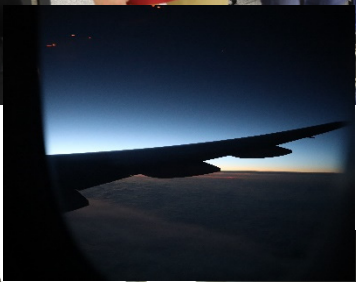
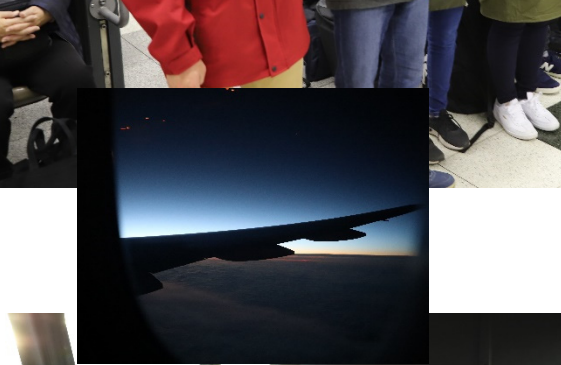
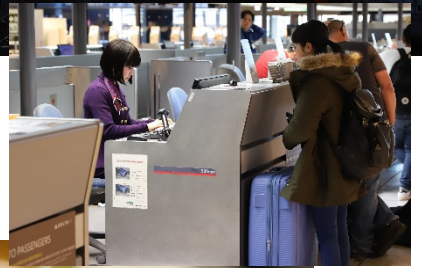
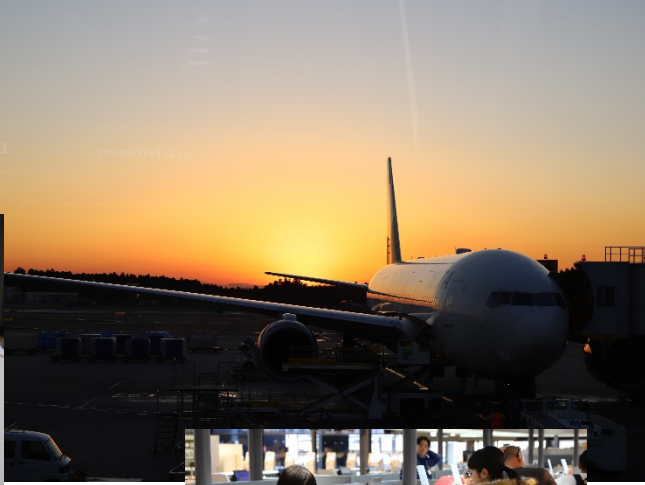
CSLA

579



平成 30 年度中学生海外派遣交流事業報告書

- 期 間 平成 31 年 1 月 4 日 (金) ~ 1 月 16 日 (水)
- 派遣先 アメリカ合衆国テネシー州チャタヌーガ市
- 派遣校 CSLA 校 (Chattanooga School for the Liberal Arts)



Tono → Chattanooga

Wonderful Days





Days with Host Families

Wonderful Days 



Days at CSLA

**Wonderful
Days** 

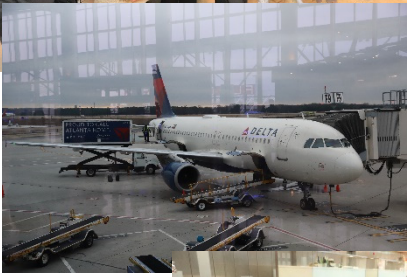
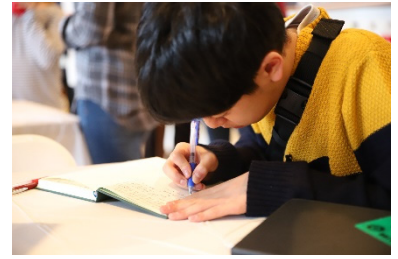


Days at CSLA



Field Trips

**Wonderful
Days** 



Chattanooga ➡ Tono



Thank you!
Wonderful Members



派遣生・引率者名簿 ✈

派遣生

番号	氏名	性別	学校	研修テーマ	ホームステイ先 名前(上) / ホストスチューデント(下)
1	おのでら たつき 小野寺 汰月	男	遠野	チャタヌーガの子ども達と スポーツの関わり	Lynne & Adam Jack Barkeloo (12)
2	おいかわ はな 及川 花	女	遠野	好きなスポーツ、バスケとアメフトの 人気の比較と 日本のスポーツの知名度	Missy & Rob Addi Greene (11)
3	こだしま ななき 小田島 七希	男	遠野	日本の漫画の知名度と人気	Melanie & Marty Xander Benson (12)
4	もりぐち よしき 守口 佳希	男	遠野	チャタヌーガでのゲームの実情	Megan & Kurt Justin Syler (12)
5	きくち さくら 菊池 彩来	女	遠野	アメリカの人たちと 音楽とのふれあい	Cathy & Brad Calla Brady (13)
6	ささき ひらり 佐々木 花厘	女	遠野西	アメリカの食文化について探る	Colleen & Jim Sarah Burer (13)
7	かたぎし まひろ 片岸 真広	男	遠野東	チャタヌーガの祭りと それぞれが大切にしている文化とは	Jim & Barbara & Catharyn Nate Konsavage (13)
8	ささき はるな 佐々木 遥菜	女	遠野東	アメリカと音楽の関係について	Steve & Christie Alexandria Wiertel (11)
9	きくち つばさ 菊池 翼	男	遠野東	アメリカ人と読書の関係について	Rachel & Bob Alex Bruner (14)

※()は年齢

引率者

番号	氏名	性別	備考	ホームステイ先
1	たかはし ひろみ 高橋 広美	女	遠野西中学校教諭	Schnitzer Family
2	きくち としき 菊池 利輝	男	(一財)遠野市教育文化振興財団事務局職員	Franceschi Family & Schnitzer Family

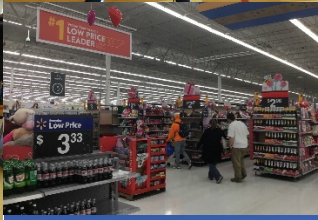
日程表

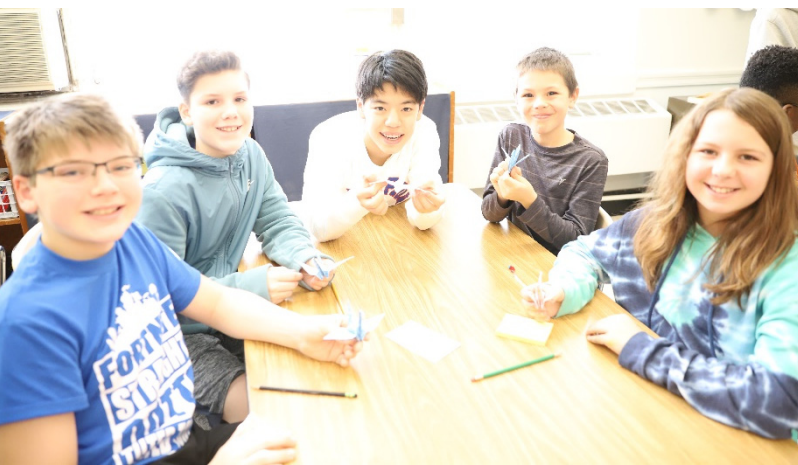
行程			内容	
1	1/4 (金)	遠野発 新花巻駅発 東京駅着 東京駅発 JR成田空港着 成田空港発	9:00 10:19 13:24 14:03 14:57 17:30	保護者や関係者の皆さんに見送られ遠野を出発。 新幹線、成田エアポートエクスプレスと乗り継ぎ、成田空港へ。 自動発券機でのチェックインに少し苦戦しましたが、 その後は手荷物の預け入れ、保安検査、出国審査を順調にクリア。 デルタ航空296便は、期待に胸を膨らませた派遣生を乗せ、 アトランタ空港へ向けて飛び立ちました。
	日付変更線	アトランタ着 チャタヌーガ着	16:10 19:10	約12時間のフライトを終え、派遣生はいよいよアメリカ大陸に。 入国審査は、英会話練習の成果を発揮し難なくパス。 その後、専用バスにてチャタヌーガ市へ。 CSLA校に到着すると、ホストファミリーから大歓迎を受けました。 派遣生は温かいお出迎えに移動の疲れも吹き飛んだ様子で、元気にそれぞれの家に向かいました。
2	1/5 (土)	チャタヌーガ	終日	ホストファミリー・デイ。 全家庭が中心市街地に集合し、地元の子どもたちに大人気の施設クリエイティブ・ディスカバリー・ミュージアムで開催されているハロー・フロム・ジャパン展などを見学しました。その後、Five Guys (ファイブ・ガイズ) というハンバーガー店で昼食。もちろん、派遣生は英語で注文しました。
3	1/6 (日)	チャタヌーガ	終日	ホストファミリー・デイ。 それぞれの家庭で休日を過ごしました。
4	1/7 (月)	チャタヌーガ	終日	登校1日目。 派遣生は、ホストファミリーの自動車やスクールバスなどで、元気に登校しました。午前中、クリスタル・スカボロウ校長とコーディネーターのシンディー・ガストン先生の案内の下、校舎内を見学。午後は、ホストスチューデントと一緒に授業に参加しました。自国とは違うアメリカでの学校生活を体験し、派遣生は良い意味でカルチャーショックを受けていたようでした。
5	1/8 (火)	チャタヌーガ	終日	登校2日目。 この日から、派遣生は各クラスでの日本文化の紹介を始めました。 派遣生は、折り紙と日本の歌『ふるさと』を英語を交えて指導。 最初は緊張して上手に教えられないでいましたが、回を重ねるうちにみるみる上達。カンニングペーパーを使わなくても、英語で指導できるまでに成長しました。日本から持参した絵本を、幼稚園児に読み聞かせする経験もしました。
6	1/9 (水)	チャタヌーガ	終日	市役所訪問 & UTC見学。 ホストスチューデントとアンディー・バーク市長を表敬訪問。その後、テネシー大学チャタヌーガ校(UTC)を見学しました。神戸市出身で20年以上アメリカで生活している同大職員のタケオ・スズキ氏の刺激的な講話を受け、派遣生は目を輝かせていました。

7	1/10 (木)	チャタヌーガ	終日	登校3日目。 この日も、派遣生は各クラスで日本文化を紹介。 最後には日本から持参したお菓子をプレゼントし、派遣生はCSLAの人気者になりました。また、各自のテーマ学習のための調査活動も実施。カフェテリアなどでアンケートやインタビューを行い、積極的に同校の生徒とコミュニケーションを図りました。
8	1/11 (金)	チャタヌーガ	終日	登校最終日。 さよなら集会が開かれ、派遣生は感謝の気持ちを込めて、全校生徒の前でプレゼンテーションを披露しました。ダンスと西中旋風を堂々と発表し、会場は盛り上がりました。午後は、フィールドワークに出発。Jason's Deli (サンドイッチ店) で昼食を取り、中高一貫校の東ハミルトン高校でペップ・ラリー (激励会) を見学しました。
9	1/12 (土)	チャタヌーガ	終日	ホストファミリー・デイ。 それぞれの家庭で休日を過ごしました。
10	1/13 (日)	チャタヌーガ	終日	ホストファミリー・デイ。 元 CSLA 校の教師で長年この交流をコーディネーターしてくださっているナンシー・ヒューストンさんの自宅で、さよならパーティーが開かれました。
11	1/14 (月)	チャタヌーガ 発 アトランタ発	6:00 11:05	朝5時半に、CSLA校に集合。 涙を流してホストファミリーと別れました。
12	1/15 (火)	成田空港着 ホテル着	15:30 17:00	約14時間のフライトの後、成田空港へ到着。無事に入国審査を終え、帰国しました。空港そばのホテルに一泊。派遣生は、研修最後の夜を思い思いに過ごしました。
13	1/16 (水)	ホテル発 JR成田空港発 東京駅発 新花巻駅着 遠野着	8:40 9:19 10:17 13:41 14:30	交通状況に問題なく、順調に遠野まで到着。多くの方にお出迎えいただき、遠野に帰ってきたことを実感しました。



コーディネーターのシンディー先生と





Tatsuki Onodera

Lynne & Adam & Jack Barkeloo Family



研修テーマ

「チャタヌーガの子ども達とスポーツの関わり」

遠野中学校 2年 小野寺 汰月

1 テーマ設定の理由

日本では、ほとんどの中学生が部活に所属し活動をしています。しかし、CSLA 校には部活はないと聞きました。チャタヌーガの子ども達は部活がない中で、いつ運動をし、スポーツとどのように関わっているのか疑問に思った。

2 研修内容と結果

(1) 調べる内容

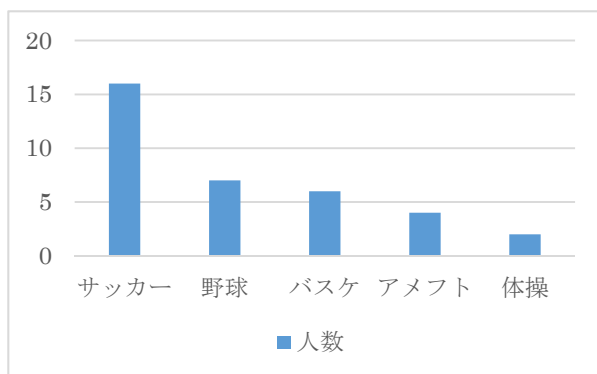
- ①あなたの好きなスポーツ
- ②運動する頻度
- ③一日に何時間（何分）運動するか

(2) 調べ方

CSLA 校の生徒にインタビューする

(3) 調べた結果

① あなたの好きなスポーツ

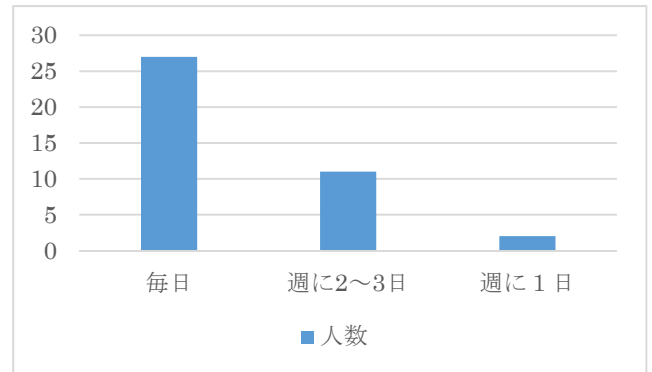


- 第一位 サッカー … 16人
- 第二位 野球 … 7人
- 第三位 バasketボール … 6人
- 第四位 アメリカンフットボール … 4人
- 第五位 体操 … 2人

その他… 1人

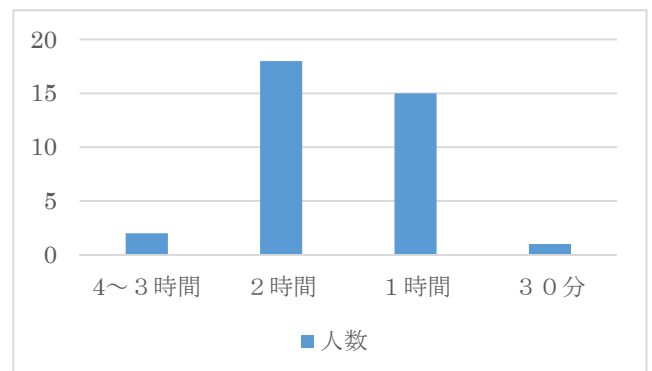
- ・アーチェリー
- ・陸上
- ・ボクシング
- ・アイスホッケー
- ・ゴルフ

② 運動する頻度



- ・毎日（放課後） … 27人
- ・週に2~3日（週末） … 11人
- ・週に1日 … 2人

③ 一日に何時間（何分）運動するか



- ・4~3時間 … 2人
- ・2時間 … 18人
- ・1時間 … 15人
- ・30分 … 1人

3 まとめ

アメリカの代表的なスポーツであるバスケットボールや野球の人気が高いと思っていたが、CSLA 校では意外にもサッカーが一番人気だった。また、CSLA 校に部活はないが、日本の中学生と同じぐらい毎日運動し、スポーツと関わっていることが分かった。

研修全体を通して感じたことや学んだこと 「チャタヌーガの思い出」

遠野中学校 2年 小野寺 汰月

今回の海外派遣で初めて海外に行く僕は、アメリカに行くことの楽しさや期待とともに、不安もありました。異国の地での生活、人々との触れ合いなど、様々な期待と不安を抱きながら、日本を出発しました。

長時間のフライトを終え、アトランタ空港に到着したときは、機内での疲れもあり、少し安心しました。そこから CSLA 校へ向かうバスの窓からは、建物やビル、道路の看板まで見る物すべてが新鮮で、日本とは違う風景や街並みを実際に感じることができました。そして CSLA 校に着くとホストファミリーが私たちを笑顔で暖かく迎え入れてくれました。最初は不安でいっぱいでしたが、暖かい歓迎を受けてとても明るい気持ちになりました。その後、ホストファミリーのみんなと夕食を食べました。しだいにアメリカでの生活が不安から楽しみに変わっていきました。

初日の午前は博物館見学をし、ハンバーガーショップで昼食を食べました。午後はチャタヌーガとダウンタウンを探索しました。アメリカの店が立ち並び、大通りも路地裏もオシャレで、とてもきれいな街でした。

2日目は、ハイキングに行きました。上りの道はとても辛く、頂上に行くのに時間がかかりましたが、見える景色はとても高く、絶景でした。

3日目からは、ホストスチューデントと一緒に CSLA 校へ通学しました。廊下ですれ違う度に先生や多くの生徒たちが「Good morning!」や

「Hello!」と声をかけてくれて、海外の学校に緊張していた僕もとてもうれしい気持ちになりました。そして僕たちは CSLA 校の生徒に折り紙と、日本の歌「ふるさと」の二つを教えてきました。たくさん先生の教室があつて回るのは大変でしたが、みんなが真剣に折り紙を作ってくれたり、教えた後も生徒のみんなが「Thank you!」と笑顔で言ってくれて、とても嬉しかったです。通学最終日には

今までのお礼の気持ちを込めて、プレゼンテーションを披露しました。「USA」を踊っている時、CSLA の生徒のみんなも元気に踊ってくれて僕たちも今まで一番楽しく踊ることができ、最高のプレゼンになりました。CSLA 校での生活はとても素晴らしい思い出になりました。

他にもいろんな所に行かせてもらいました。UCT(大学)やEastHamilton (イーストハミルトン) 高校、市役所などに行き、チャタヌーガの歴史や文化、魅力を感じることができました。

チャタヌーガ最終日、遠野の生徒とホストファミリーみんなでお別れパーティーをしました。チャタヌーガでの日々を思い出しながら、パーティーを楽しむことができました。チャタヌーガでの生活はあっという間で、終わってしまうのがとても名残惜しかったです。ホストファミリーは最後まで暖かく、優しく接してくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の研修で、人生において大切なことをたくさん学ぶことができました。言葉にできなくても気持ちが伝わる素晴らしさと、そして、笑顔でいることで自分も周りも幸せな気持ちになれることなど、今回のアメリカの生活の中で実感できました。

最後に、引率の利輝さん、広美先生、事前研修で英会話を指導してくれた ALT の先生方、そして今回の研修で協力、支援してくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

チャタヌーガの紹介

「CSLA校」



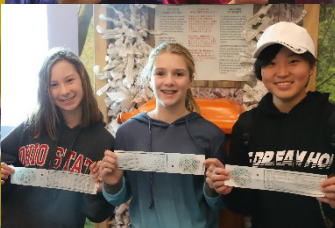
みんなとてもフレンドリーで、笑顔の多い学校です。みんな優しく、居心地がよく、気持ちが明るくなるような学校です！

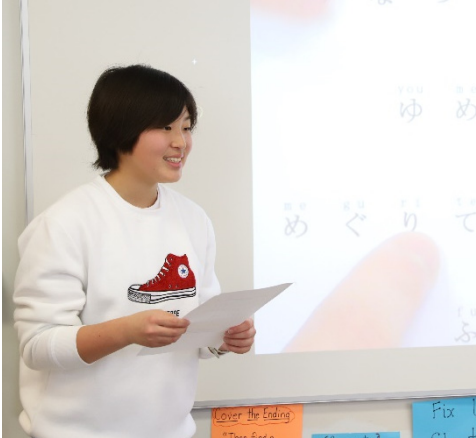
CSLAでの日々はとても楽しかったです！



Hana Oikawa

Missy & Rob & Addi Greene Family





研修テーマ

「好きなスポーツ、バスケとアメフトの人気の比較と日本のスポーツの知名度」

遠野学校 2年 及川 花

1 テーマ設定の理由

- ① 私はスポーツが好きで、アメリカの小・中学生はどんなスポーツが好きか調べてみたかったから。
- ② アメリカで人気のバスケとアメフトは、どちらが一番人気あるのか気になったから。
- ③ 日本のスポーツの知名度はどのくらいか調べてみたかったから。

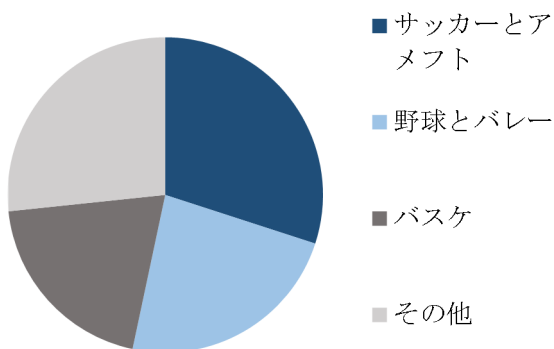
2 研修内容と結果

(1)～(3)はCSLA校の1年生～中学2年生の25人にアンケートに答えてもらった。

(複数回答可)

(1) 好きなスポーツについて

好きなスポーツ



サッカーとアメフトが25人中8人、野球とバレーが7人、バスケが6人だった。その他がホッケー、テニス、ソフトボール、ラグビー、サーフィン。バスケとアメフトが一番だと思ったが、サッカーがアメフトとならんでおどろいた。



(2) バスケとアメフトの人気度について

バスケ・・・11人

アメフト・・・14人

バスケとアメフトでは、3人の差でアメフトが人気だった。

(3) 日本のスポーツのについて

知っている・・・6人

知らない・・・14人

日本のスポーツを知らない人が多かった。知っている人は、サッカー、バスケ、ラグビー、バドミントン、野球だった。

知っている人でも剣道や空手、相撲、柔道を知っている人は数人しかいなかった。

3 まとめ

たくさんの生徒たちに協力してもらうことができた。自分の好きなことでテーマ学習をすることができた。アンケート結果からサッカーが多いことと、バスケが少ないことが一番驚いた。

また、意外と「剣道」・「空手」・「相撲」・「柔道」が私の調べる中で知っている人が少ないことがわかった。

研修全体を通して感じたことや学んだこと

「驚きと楽しさでいっぱいだった！3日間！！」

遠野中学校 2年 及川 花

今回、海外に行くのが初めてだった私は事前研修から楽しさとワクワク感でいっぱいでした。

6回の研修を終え、1月4日に日本を出発しました。長いフライトを終え、アトランタ空港に着き、約2時間かけチャタヌーガへ向かいCSLA校に到着しました。

そこでは、ホストファミリーの皆さんが私たちの名前を書いた紙を持って名前を呼んで歓迎してくれました。

チャタヌーガに着いて2日目、ほかのホストファミリーと私たちが科学館に行きました。そこには、日本の場所があってひらがなやカタカナ、漢字を練習できる場所があり、ホストスチューデントに教えることができました。そのあと、ハンバーガーを食べました。食べた後はホストファミリーと一緒にチャタヌーガチュウチュウを見に行きました。夜はホストファザーのお母さんの誕生日会をしました。

3日目は、ハイキングに行きました。道のりは長かったけどとてもきれいな景色を見れてよかったです。

4日目からは、学校が始まり折り紙を教えたり、歌を教えたりすることができました。一番人気だったのは、やはり日本のお菓子でした(笑)。

6日目は、チャタヌーガの市長と面会をして、UTC という大学のツアーにも行きました。

8日目は、学校へ登校するのが最後で、たくさんの人に声をかけました。

9日目は、午後からホストスチューデントが通っているサッカークラブの練習をすることができました。

10日目、ホストファミリーと過ごす最後の日。今まで話せなかったことをたくさん話したり、日本料理を作ったりしました。午後からは、お別れパーティーをしました。

この派遣交流では、もちろん、たくさんのことを学んできましたが、やはり、驚くことや楽しい思い出のほうが多かったです。

また、ホストファミリーやホストスチューデントの友達に恵まれ、内容の濃いものとなりましたと思います。この経験を生かして、将来は英語の先生か海外に住んでアメリカで日本語教師アシスタントになりたいです。

最後にホストファミリーの皆さん、CSLA校の皆さん、事前研修からお世話になった利輝さん、高橋先生、財団の皆さん、学校の先生方、家族の皆さん、そしてこの研修に携わって下さったすべての皆さん、本当にありがとうございました！！

I' ll be back again, so wait !

チャタヌーガの紹介

「ルック・アウト・マウンテン」



ルック・アウト・マウンテンは市内の観光名所で、山を登りきると、とてもきれいな絶景を見渡すことができます。



Nanaki Kodashima

Melanie & Marty & Xander Benson Family





研修テーマ

「日本の漫画の知名度と人気」

遠野中学校 2年 小田島 七希

1 テーマ設定の理由

私は、小さい頃からマンガが好きで、家に百数十冊のマンガ本があります。特に「ナルト」というマンガが好きなのですが、夏に私の家にホームステイしたニーマさんが、私と姉のマンガ本を見て、ほとんどの物を読んだことがある。または、知っているといっているのが驚いたので他のアメリカの人はどうなのか。また、人気のあるマンガはどんなものか知りたいと思い取り組みました。

2 研修内容と結果

Questionnaire ~アンケート~

Q1 Have you ever read Japanese comics?
あなたは日本のマンガを見たことがあるか。
YES NO

Q2 Please tell me the number of books you have read or know? Example 0
以下のマンガを見たことのあるものや、知っているマンガに口をつけてください。

ドラゴンボール	1	2	3	4	5
---------	---	---	---	---	---

Q3 Please tell me book names which you have read?
読んだことのある本を教えてください。

Q4 What do you think about Japanese comics?
日本の漫画をどう思うか。

私は、アンケート用紙を配布し記入してもらう方法でまとめてみた。配布対象として、CSLAの小・中学生からランダムに、手渡しで、20人にお願いした。

参考：アンケート用紙

(1) あなたは日本のマンガを見たことがあるか【Q1】。について

ある	ない
13人	7人

意外と読んだことがある人がいてびっくりした。

(2) 写真の中で見たことのあるものや、知っているものはあるか【Q2】。について

1位	DRAGON BALL	11名
2位	NARUTO	5名
3位	SLAM DUNK	2名
4位	暗殺教室	1名
5位	黒子のバスケ	0名
その他	無回答	7名

ドラゴンボールが断トツで多かった。また、ナルトの人気あまりなかったのが残念だった。

(3) 他に読んだことがある本を教えてください【Q3】。について

ポケットモンスター	2名
なし	15名
無回答	3名

ポケモンも知られていたのが、驚いた。

(4) 日本のマンガをどう思うか【Q4】。について

- ・かっこいい
- ・面白い
- ・アメリカのものよりもいい

3 まとめ

今回の調査を通して、アメリカ人は、日本のマンガは自国のものよりも良い、かっこいい、面白いなどと思っていて、日本で人気があるものなどが、アメリカでも知名度があることが分かりました。

特に、今回選択肢に挙げたものは英語版も出版されていたり、テレビで放送されたりして、人気が高かったです。また、今はスマホのアプリで読んでいるという人も何人かいました。おみやげに「ナルト」の英語版のマンガをもらったことが嬉しかったです。

研修全体を通して感じたことや学んだこと

世界の共通言語は「英語」じゃなく「笑顔」は本当

遠野中学校 2年 小田島 七希

今回、この海外派遣事業に参加し、引率の菊池利輝さんがつくってくださった、旅のしおりの最終ページにしるされた「一生忘れられない海外派遣にするための10か条」の第1条「世界の共通言語は「英語」じゃなくて「笑顔」だと信じること。」というのは、本当だと実感しました。

それを強く感じたのは、ホストファミリーや同年代の小中学生と話しをする場面でした。私は英語が苦手な「自分の英語力でアメリカでの生活を乗り切れるのか」、「ホストファミリーや学校にいる人達と仲良くなれるのだろうか」ととても不安を感じていました。

そこで思い出したのが、旅のしおりにかかっていたあの言葉なのです。アメリカの地に到着した私は、すぐに笑顔でいることを心がけて行動するようにしました。ホストファミリーとの会話のときも、CSLAで折り紙を折ったり、「ふるさと」を一緒に歌ったりした時、街でハンバーガーを注文するときも、笑顔でいることを心がけていました。最初は早い英語で聞き取れないこともありましたが、聞き返したりすると、私ができる英語を使ってくれたり、スマホで翻訳をしてくれて、分かるようにしてくれました。

私も、単語や身振り手振りで、自分が言いたいことを伝えました。英語の勉強には、あまり自信がない私ですが、伝えようとするだけで、相手の話すことも理解出来ました。思い返すとそこには、お互い笑顔があったように思います。このことから、「世界の共通言語」の一番の基本は「笑顔」だ！と自信を持って今は言えます。教えて下さった皆さんに感謝します。

今回共にアメリカ・チャタヌーガへ派遣されたメンバーとも、毎日とても楽しく過ごすことができました。移動中もお互いのホストファミリーとの生活や楽しかったことについて情報交換をして自分の生活へ活かしたり、私が言いたいことを英語で言えず困っていたときに、助けてくれたりするなど、13日間の研修を通して、お互いに支え合い、事前研修のときよりも仲良くなることができました。本当に、素敵な仲間と出会うことが出来

たと私は感じています。

夏に私の家にホームステイしたニーマさんと再会できたことも、今回の研修で嬉しかったことの一つです。ニーマさんに会えることを期待して、大好物の味付け海苔と、コアラのマーチ、そして、ニーマさんが大好きな日本のマンガ本をお土産に持って行きましたが、ニーマさんが私のホストマザーと連絡を取り合って、家に訪ねて来てくれました。とても、嬉しかったです。

そして、今回私達がチャタヌーガに行って、色々なところで大歓迎をされたことは、今まで培ってきた交流があるからだと思います。遠野市のみなさん、財団のみなさん、今まで派遣された先輩方がずっと良い関係をつづけたことによる信頼関係があったからこそ、私達がたくさん歓迎して頂いて、楽しく過ごすことができたのだと感じています。

その信頼関係の絆に包まれて、私達は本当に有意義な時間を過ごすことができました。私達が学んだ「笑顔の大切さ」をアメリカへの経験を交えながら、周りの友達に伝えて行きたいと思います。そしてまた、次にアメリカを訪れるときにはレベルアップした「英語力」と「笑顔」を手に、またホストファミリーと再会したいです。

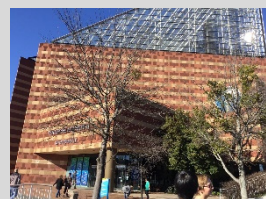
最後に、私を受け入れて下さったBENSON家の皆さん、ルイーザ先生、シンディー先生、伊香さん、CSLA校の皆さん、利輝さん、広美先生、中浜教育長、遠野市教育文化振興財団のみなさんありがとうございました。

チャタヌーガの紹介

「テネシー水族館」

サメを触ることができます。日本では見るできない魚がいました。お土産もたくさんあります。

おすすめは、キーホルダー。帰るときには、ぜひ、ホットドッグを食べてください。とてもおいしいです。







Yoshiki Moriguchi

Megan & Kurt & Justin Syler Family



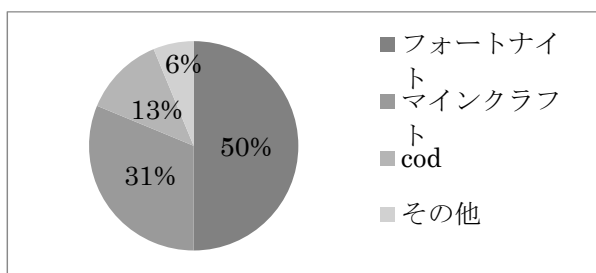
1 テーマ設定の理由

僕はゲーム機をもっていません。しかし、友人の家に遊びに行き、ゲームをし始めると夢中になり、やめられなくなります。

コンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」。昨年日本野球機構も参入し、野球ゲームを使ったプロリーグも創設されました。そこで、チャタヌーガでのゲーム実情や、「eスポーツ」の知名度について調べてみようと思いました。

2 研修内容と結果

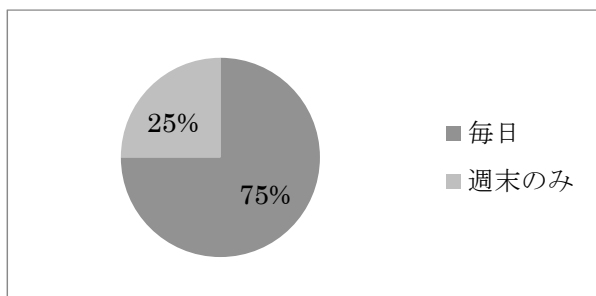
(1) チャタヌーガで人気のゲーム



人気のゲームはサバイバルゲーム（フォートナイト・cod）で約7割、次にクラフトゲーム（マイクラフト）が約3割でした。

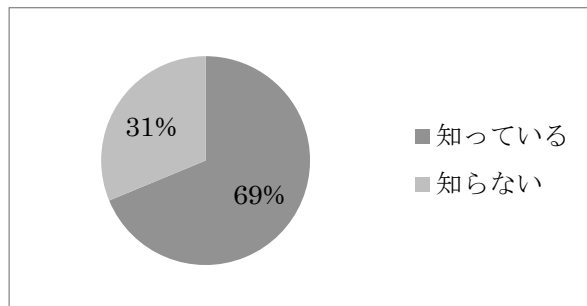
(2) ゲームをする時間について

Q. いつゲームをしますか？



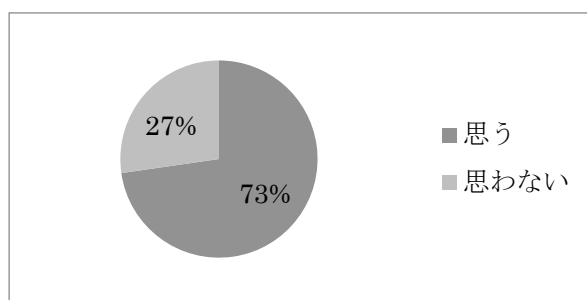
約7割の人が毎日、帰宅後や自由な時間にゲームをしていました。その中の多くの人が夜にゲームをしていました。約2割の人が登校前や週末だけの限られた時間の中で、ゲームをしていました。

(3) eスポーツの知名度について



今話題の「eスポーツ」は、約7割の人に知られていました。

(4) 「eスポーツ」をスポーツと思うか



「eスポーツ」をスポーツだと思う人が多くいました。

3 まとめ

チャタヌーガでは、ほとんどの人がゲーム機を持っていて自由にゲームをしているが、「eスポーツ」は、まだまだ知名度が低いだろうと僕は予想していました。

予想通りほとんどの学生がゲーム機を持ってが、限られた時間の中でゲームをしている人もいました。

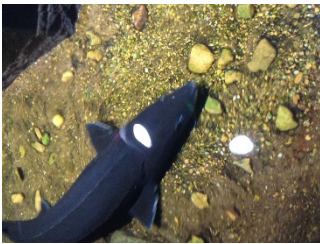
日本ではまだ知名度が低い「eスポーツ」ですが、チャタヌーガでは多くの人に知られていて、それを「スポーツ」だと思っている人の多さに驚きました。これからは、目の前で体を動かし熱い戦いをする「スポーツ」だけでなく、画面を通して戦うゲームも同じく「スポーツ」として認識されてくるのだろうなと思いました。

研修全体を通して感じたことや学んだこと 「研修での思い出」

遠野中学校 2年 守口 佳希

1. チャタヌーガ市内観光

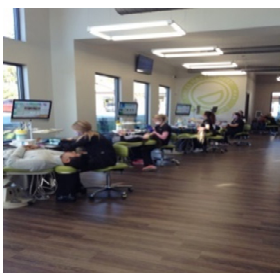
休日は家族全員と他のホストファミリーと一緒にテネシー水族館に行きました。水族館は、海と水辺の2つのパートに分かれていて、エイやサメなどを触ることのできるコーナーもありました。



日本では見ることでできない魚もたくさんいて、楽しく休日を過ごすことが出来ました。

2. ホストファミリーとの思い出

ホストファミリーとの会話の中で、アメリカの歯科に興味があると伝えたところ、隣人さんが歯科医ということもあり、配慮してくれ見学することが出来ました。チャタヌーガでも有名な歯医者さんで、すごく大きかったです。日本と違うところは、ゲームや自由に食べられるクッキーが置いてあることです。日本では待合室にクッキーが置いてあるなんて考えられず、とても驚きました。



外食で「Fuji」というお寿司とステーキのお店に連れて行ってもらいました。そこには日本人の方もいて、メニューを日本語で説明してくれました。握りは日本と同じくらい美味しかったです。しかしその日本人の方が、「ちらし寿司だけは絶対に食べてはいけません。」と言っていました。なぜかと聞くと、日本ではご飯の上にいるようなお刺身がのっけていておいしいのですが、そのお店で

は、お刺身の上にご飯が雑にのっけているだけと言っていました。その方が言うには、おいしくないらしいです。



夜は、ホストスチューデントのジャスティンとゲームをしたり、テレビを見たりして楽しく過ごしました。

3. まとめ

今回のチャタヌーガ研修では、楽しいことばかりの13日間でした。出発前は不安な気持ちが強かったのですが、いざホームステイしてみると、なんとかコミュニケーションも取れ、楽しく過ごすことが出来て、研修が終わった時にはまだ滞在したいという気持ちが強く残りました。

僕は人と積極的にコミュニケーションをとることが苦手でした。しかし、日本語が通じない環境で、一生懸命お互いが言いたいことを伝えていくうちに、自分に自信が付き、自分からも積極的に話しかけられるようになりました。

この研修を支えてくださった皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございました！！

Thank you!!!

チャタヌーガの紹介

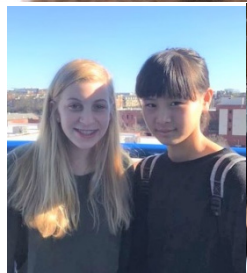
「CSLA校」

とてもフレンドリーな生徒

さんがたくさんいて、接しやすかったです。みんな盛り上がりも良くて、とても楽しく過ごしました。

I love CSLA!!!





Sakura Kikuchi

Cathy & Brad & Calla Brady Family





1 テーマ設定の理由

私は、今ピアノを習っています。そして、私のクラスではとても合唱が盛んで、毎日朝と夕方2回歌っていて、音楽の授業でも歌っています。要するに、私たちの周りには音楽と触れ合う機会がたくさんあり、音楽にあふれています。

アメリカの学生はどうなのだろうと思うようになったのがきっかけです。

2 研修内容と結果

(1) 音楽の好感度について

まず、私は音楽の好感度について調べました。チャタヌーガでのけっかでは、アンケートに答えたすべての人が **音楽は好きだ** と言っていました。

理由には「歌っていて楽しいから」「聞いていて楽しいから」「リラックスする事が出来る」などがあげられ、みんな音楽を楽しむようなことを話したり書いたりしていました。

一方、私の遠野の友達に聞いたところ「音楽は好きだ。でも、歌うのは少し苦手」「歌うのは好きだ。でも、人前で歌うのは苦手」という声があり、少し日本のほうがマイナスイメージがあるかもしれません。

(2) 音楽に関する習い事について

次に私は音楽に関する習い事について調べました。回答では、ピアノ、サックス、ギター、ビオラ、クラリネット、バイオリンなど幅広い種類の楽器の習い事があることが分かりました。音楽の授業の差もあるかもしれません。私が実際に見た授業では、クラスの人たちはオーケストラのような体形でバイオリンやピアノ、ビオラなど、幅広い種類の楽器を授業で体験することが出来るということが分かりました。

(3) 音楽の授業について①

そして私は音楽の授業でどのくらい楽器を演奏してるか調べました。

一番多かったのは「毎日」次に多かったのは「一週間で4回。一回につき、40分程度」でした。一週間の間で一回くらいしか私たちは、音楽の授業を受けないので、遠野と比較して多いといえると思います。

(4) 音楽の授業について②

最後に私は音楽の授業で歌うことについて聞いてみたところ、一応歌うらしいです。ですが今は歌うよりも楽器の演奏の方が多いらしいです。私たちはほとんどの音楽の授業は「歌」です。その様な面からも日本とアメリカとの違いが分かりました。

3 まとめ

今回の調査では日本とアメリカの違いが、たくさん見受けられました。

例えば音楽の授業です。私が見た授業では、踊っていたり、沢山の楽器を弾いたり私たちの日本の音楽の授業では見ないようなこともありました。また、教会に行った時も、参加した人たちが歌ったりするのが驚きでした。

日本とアメリカ、それぞれ形は違うけど二つとも音楽にあふれているのは一緒でした。

研修全体を通して感じたことや学んだこと 「たくさんの共有」

遠野中学校 2年 菊池 彩来

今回の研修では、たくさんの学びがありました。チャタヌーガに着いた次の日、私たちは「子ども科学館」に行きました。そこではたくさんのおもしろいものがありました。最初は、緊張や、不安から、日本の人と一緒にいることが多かったけど徐々に緊張も解け、ホストファミリーと一緒に楽しめるようになりました。

その後わたしは、CSAS校へ行き、ある方とお会いしてきました。その方は20年以上も前、私の母が実家でホストした方で、とても優しい方でした。私は、その方と今も連絡できるようになり、母やその方と会えたことのうれしさを共有することができ、そしてこれからも交流をしていこうと思います。

楽しい週末を終え、私たちは月曜日からホストスチューデントとともにCSLA校に通いました。ここでは折り紙や「ふるさと」という曲を教えました。

最初の授業私は緊張して、あまり上手に教える事ができませんでした。それでもその授業が終わったあと、女の子が私にハグしてくれました。うれしかったし、とっても達成感のあることだと初めて実感することが出来ました。分かりにくい説明でも、伝えるために自分も一緒になって折り、最初にお手本を用意して何を作るのか明確にすることでカタコト英語でも伝わるようになりました。

また、折り紙を教えるのに余裕が出てきて、少しずつ「折り紙を知っている？」とか、「折り紙みしたことある？」などと聞けるようになってきました。そうすると、「イエス！！」とか、「僕はそれでドラゴンが作れるよ！！！」などたくさんの方が声が上がりました。ほんとにその子は折り紙でドラゴンを作っていて、驚きました。そういうみんなでの楽しさや、大変さを共有しながら、一週

間は、あっという間に過ぎていき、気付けば最後の週末になっていました。最初は、発音が聞き取れず四苦八苦しましたが、帰る頃になると耳も慣れてきて、簡単な会話であれば支障なくできるようになりました。

帰国が近づき、夢のような一週間はあっという間に過ぎました。

私はこの派遣の前、自分のカタコト英語を恥ずかしく思っていました。この派遣を通して、カタコトの英語でもジェスチャーや表情を交えて話したり、実物を見せたりして伝えることが出来ることを知り、人に物事を伝えるには言葉以外のことも重要で、自分も物事に対して色々な角度から理解していなければ、相手には上手く伝えられないことを実感しました。これからもこの体験は、ずっと私の心に残るし一生忘れられない経験になったと思います。そして、楽しい時は楽しい、嬉しい時は嬉しい、面白いなら面白いと、自分の気持ちを素直に伝えることも大切だと思いました。これからも素直に自分の感じたことをたくさんの方と共有できるように頑張りたいです。

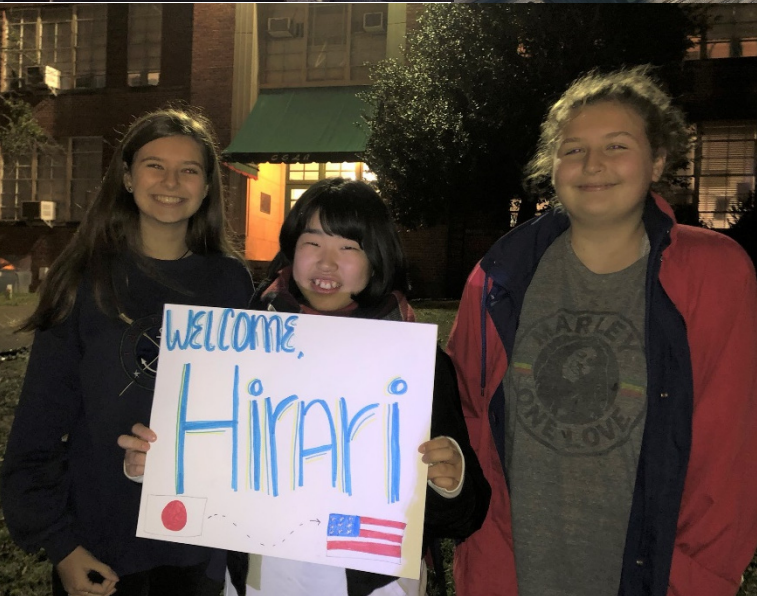
チャタヌーガの紹介

「テネシー水族館」と その周辺の街並み

建物が二つに分かれるとても大きい水族館です。一日では見切れないほどです。水族館の脇には、これまた大きなテネシー川があります。

周辺は、おしゃれで綺麗な町並みで驚きました。

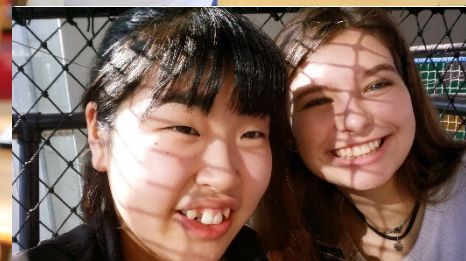






Hirari Sasaki

Colleen & Jim & Sarah Burer Family



1 テーマ設定の理由

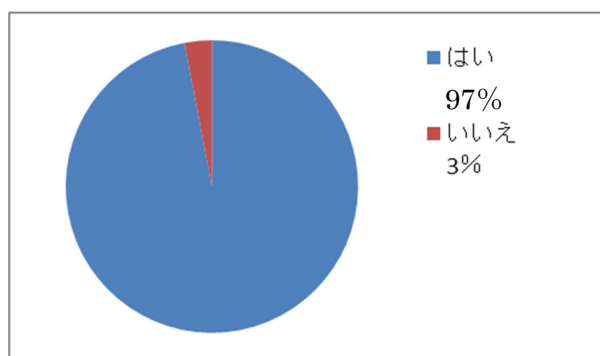
私は国の文化の代表に食文化が挙げられると思います。そのため、各国で違いも多く大きいのではないかと考えました。誇るべき自国の食にどのような違いがあるのか気になり調べてみようと思いました。

2 研修内容と結果

(1) 一日3食食べるか。

はい。→34人中 33人

(一日4食のうち子もいました。)



(2) アメリカで有名な食べ物は何か。

第1位・・・ハンバーガー

(特にチーズバーガーが人気だった。)

第2位・・・ピザ

第3位・・・タコス

その他・・・ステーキ、フライドポテト、チキン、サンドイッチ、ホットドッグ、スイカ、パスタ、ミートボール、ナチョス、サラダ、クッキー、スープ、アイスクリーム、チーズ、ミント、サブウェイのサンドイッチ、バーベキュー、ベジタブル、魚、スパゲッティ、ナゲット、…など

(3) 日本の料理で知っているものはありますか。

《聞いたもの》

・寿司 ・そば ・天ぷら ・茶わん蒸し
 ・すき焼き ・おにぎり ・肉じゃが
 ・湯豆腐

《結果》

第1位・・・寿司

第2位・・・おにぎり

第3位・・・天ぷら

第4位・・・そば

第5位・・・湯豆腐、すき焼き

その他・・・0票

(4) ご飯を食べるときは家族そろって食べますか。

はい。→34人中 14人 約41%

いいえ。→34人中 19人 約56%

時々。→1人

3 まとめ

アメリカで人気の食べ物は、日本でも人気がある食べ物でした。そのことから、日本は異国の食べ物や料理を多く取り入れていることがわかりました。アメリカにも日本食屋があったのですが、値段も高く気軽な食べ物として取り入れられているわけではないということもわかりました。

また、私のホストファミリーの家はパスタを麺から作ったりとかなり本格的でした。お米もよく食べるようで、箸と炊飯器が家にありました。お米は、タイ米のようではらばらとしていました。

今回食文化について調べて、どちらの国も他国の食に触れながら生活していることを学ぶことができました。

研修全体を通して感じたことや学んだこと 「私の財産」

遠野西中学校 2年 佐々木 花厘

私は今回の派遣で初めて海外に行きました。

初めてだからイメージもできず、11日間も1人で過ごしていけるのか、しっかり英語で会話をできるのか、何もかも不安なまま出発しました。

その不安はアトランタの景色を見た瞬間に吹き飛びました。大きい高速道路、外車、おしゃれな家、大きいビル。何もかもが日本のサイズとはけた違いで、初めて見るものばかりだったのでとても興奮していました。これからの生活がとても楽しみになりました。

CSLAにつき、いざホストファミリーを目の前にするとこれから1人で日本語を知らない人とうまくコミュニケーションをとっていけるのかと、急に大きな不安に襲われとても緊張していました。でも私はその日も最後は楽しく終わることができました。それができたのは、ホストファミリーの『笑顔』があったからです。ホストファザーのジムがギャグで笑わせてくれたり、ホストスチューデントのサラとレイチェルも好きな歌などを聞いて話しかけてくれました。また、出会ったその日に行きたかったマックとスーパーマーケットへ連れて行ってくれました。本当に温かい家族が迎えてくれ、安心することができました。

今回チャタヌーガの沢山の場所を観光しました。こども科学館やハンバーガーショップ、中心街のショップ、キャンディー専門店やショッピングモール、テネシー大学や市庁舎などに行きました。また、ホストファミリーが教会や日曜学校、水族館やスケートなどにも連れて行ってくれました。特に楽しかったのがこども科学館と水族館です。この2つでは、ホストスチューデントと一緒に楽しむことで距離を縮めることができました。そして、観光していく中でもたくさんの人の温かさに触れることができました。どこの店の定員さんも『楽しんでね』とか『買ってくれてありがとう』などと声をかけてきてくれました。とてもフレン

ドリーで日本にはない距離感が気に入りました。

そして、今回の派遣で1番楽しかったのは、CSLA校です。そこで私たちは、各学級を回り、折り紙や「ふるさと」を教えたりしました。登校3日目からは、私が前に出て1人で進める場面も増えてきました。始めは伝えたいことが上手く伝わらず困ったりもしましたが、拙い英語でもCSLAの生徒は頑張って聞き取ろうとしてくれたので私も気合を入れて取り組みました。

CSLAの生徒はどこでも気軽に話しかけてくれて、フレンドリーでした。最後のプレゼンテーションも想像以上の盛り上がりで、さすがアメリカかと思いました。とても楽しかったです。

今回の派遣で私はたくさんの人の温かさに触れることができました。チャタヌーガは笑顔で溢れた町でした。常に相手を思いやり、それを行動に移す大切さを学びました。実際にアメリカに訪れ過ぎていく中で、おおざっぱで自分の意見を曲げないというイメージが大きく変わりました。アメリカは繊細で優しい人が多く一緒に過ごしてとても居心地がよく、安心できる場所でした。

このような体験をすることができたのは、引率をしてくださった先生方、遠野市教育文化復興財団の皆様、ALTの先生方、保護者の皆様の応援があったからです。今回のこの経験は私の人生の大きな財産となりました。またいつかチャタヌーガに行きたいと思います。そして実際にみて学んできたことを今後の生活に生かしていきます。最後に、今回のこの事業を応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

チャタヌーガの紹介

「テネシー水族館」

珍しい魚がいっぱいで何枚でも写真を撮りたくなる場所です。



Mahiro Katagishi



Jim & Barbara & Catharyn & Nate Konsavage Family





研修テーマ

「チャタヌーガの祭りとそれぞれが大切にしている文化とは」

遠野東中学校 2年 片岸 真広

— 1 テーマ設定の理由 —

日本には歌舞伎や、落語、寿司等といった素晴らしい文化があります。また遠野にも、南部囃子や、神楽、獅子踊りなどたくさんの伝統芸能があります。私自身も獅子踊りを踊っているのですが、獅子踊りは大好きで毎年の遠野祭りが楽しみで仕方ありません。このように日本や遠野の祭りや伝統は知っているものの、海外の祭りや伝統的な文化はあまり知りません。「もしかしたら日本のような文化があるかもしれない！」などと考え、調べてみたいと思ったのでこのようなテーマにしました。

— 2 研修内容と結果 —

(1) チャタヌーガの伝統的な祭りについて

まず1つ目に伝統的な祭りがあるのかという事を調べてみました。

※アンケート結果は男女別と全体の結果の

3種類・全体の結果は%表示

調査方法：アンケートを配り書いてもらう

アンケート結果

チャタヌーガの伝統的な祭りでどんなものがあるか知っていますか？という質問に対して

女子 知っている 3人
知らない 17人 (20人中)

男子 知っている 11人
知らない 18人 (29人中)

全体 知っている 28,6%
知らない 71,4%

この様な結果になった。

知っていると答えた人の中で、細かく答えてもらった中には

「4 bridges arts festival」という芸術祭や、

「Riverbend Festival」という音楽フェスティバルなどがありました。

(2) チャタヌーガで自分が大切にしている

文化・活動について

調査方法

(1)と同様にアンケートを取る

アンケート結果

チャタヌーガで自分が大切にしている文化・活動は何かありますか？という質問に対して、

女子 ある 9人
ない 11人 (20人中)

男子 ある 13人
ない 14人 (27人中)

全体 ある 46,8%
ない 53,2%

この様な結果になった。

(1)と同様に、あると答えた人中で、さらに細かく答えてもらったものの中にはキリスト教の信仰や、ゾロアスター教の信仰など、自分の信仰している宗教を大切にしているひが多いという事がわかりました。また、(1)の回答にもあった通り音楽フェスティバルがチャタヌーガにはあるという事なので、音楽活動を大切にしている人も多かったです。

— 3 まとめ —

アンケートを行った結果として(1)は伝統的という部分で音楽フェスティバルが入らないという事で、知らないと答えた人が多かったのではないかと考えられます。しかし、答えてくれたものの中に、日本でいうところの芸術祭や音楽フェスティバルという祭りがあったので、チャタヌーガにもそのような祭りがあるのだなおもいました。また、(2)のアンケートではそれぞれがそれぞれの個性を理解し、尊重しているようなことが見てわかりました。実際にアメリカの生活を見てきて、皆日常を楽しんでいるようでした。

研修全体を通して感じたことや学んだこと 「持ち続けるべきもの」

遠野東中学校 2年 片岸 真広

私はこの研修がとてもいい経験となりました。普通に日常を過ごしては体験することができないものが、アメリカのチャタヌーガにはたくさんありました。ここでは自分が体験したこと、感じたことを紹介します。

まずホストファミリーとはじめて会ったとは、正直とても疲れていました。14時間のフライト+バス移動だったので、初めての対面と疲れが相まって最初は英語があまり聞き取れませんでした。しかし、ホストスチューデントのNateが質問を簡単な英語に直して聞き返してくれたので、話をすることができました。

ホストファミリーの家に着くと、まず一番に驚いたことは家の大きさでした。1階、2階があるのは分かるのですが、地下があり、しかもビリヤード台が置いてあるのでものすごく驚きました。そしてその日の夕食はピザでした。

次の日、朝ご飯がどれくらいの量なのかさっぱり分からないので身構えていたら、朝ご飯はクッキー一枚と飲み物だけでした。私自身、朝にあまり食べなくても大丈夫な人なので良かったのですが、想像していた物とのギャップが激しくて、何と言ったらいいのかわかりませんでした。その分お昼ご飯はハンバーガーと大量のフライドポテトを食べました。

チャタヌーガで食べたものの中で驚いたのは、クッキー、なまずのサンドウィッチ、フライドポテトの3つです。なまずのサンドウィッチは、Nateとおじいちゃんとおばあちゃんと一緒に食べました。なまずは英語で「cat fish」と言って最初に言われたときは何のことか見当もつきませんでした。食べてみると、なまずは意外とおいしいという事がわかりました。

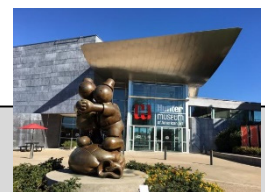
そして、もう一つのフライドポテトですが、これは想像しているのとは違うものが出てきました。日本でいうところの「フライドポテト」は英

語では「French fries」といいます。しかし、メニューにフライドポテトというものがあってので友達が頼んでみた結果、とても大きいジャガイモに十字の切込みが入っており、大量のチーズがかかったものが運ばれてきました。とても大きかったです。皆で協力しておいしく頂きました。

学校では私たちが折り紙の折り方や、童謡など日本のものを教えました。小さい子から、中学生までみんな日本の文化に興味津々で教えているこっちも楽しくなれました。また皆がフレンドリーに接してくれたという事もありとても楽しかったです。

最終日、ホストファミリーと別れる時は悲しくなり、泣いてしまいました。しかし、最後に泣くことができたという事は、それだけ絆が深まり、素晴らしい研修だったという事なのではないでしょうか。やはり何事にも挑戦する気持ち、向上心や好奇心のようなものは、いつまでも、誰もが持ち続けるべきだと私は考えます。ですから、私はこれからも様々なことに挑戦し、今回学んだことを忘れずに生活をしていきたいと思います。

最後に、この派遣に関わり、支えてくださった多くの皆様、本当にありがとうございました。

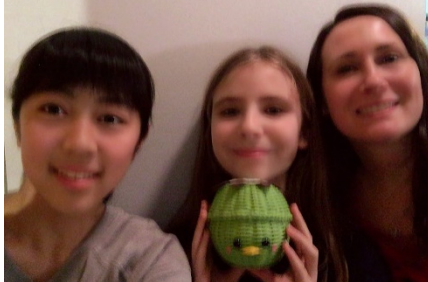


チャタヌーガの紹介 「ハンター

ミュージアム」

Hunter Museum of American Art

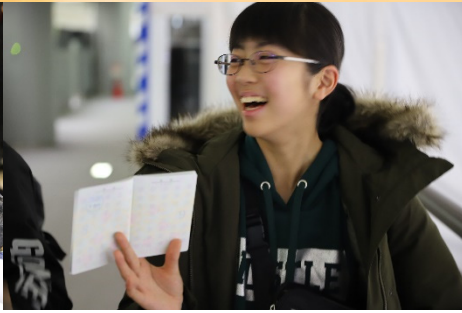
様々な美術作品が置いてある美術館。素晴らしい作品ばかりで見ていてワクワクしました。昔、人が住んでいたところがそのまま美術館として使われているところもあり、面白いです。天気のいい日には館内からテネシー川の素晴らしい景色を見ることができます。





Haruna Sasaki

Steve & Christie & Alexandria Wiertel Family



1 テーマ設定の理由

私は音楽を聴くのが好きで、時間があれば興味のある音楽を聴いています。また、私の学校では合唱に力を入れて取り組んでいます。アメリカの学生も自分の好きな音楽を聴き、クラスや学校で合唱に取り組んでいるのかどうか知りたいと思ったのでこのテーマにしました。

2 研修内容と結果

(1) 調べた内容

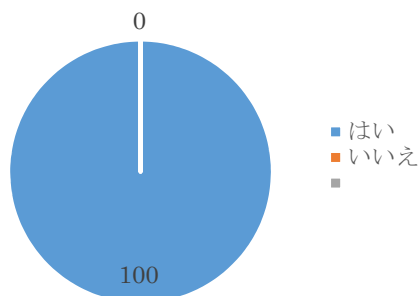
- ①音楽を聴くことは好きか
- ②音楽を聴いてどんな気分になるか
- ③普段クラスで合唱をするか

(2) 調べ方

- ・CSLA 校の生徒にインタビューする
- ・ホストファミリーに質問をする

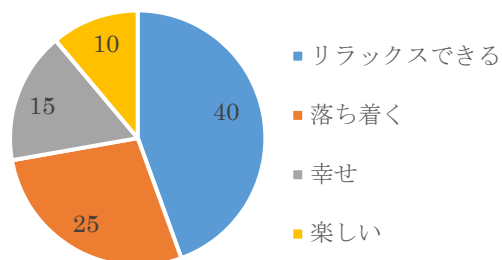
(3) 調べた結果

① 音楽を聴くことは好きか

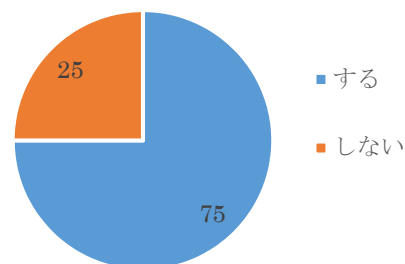


インタビューに答えてくれた全員が音楽を聴くことが好きだと回答しました。

② 音楽を聴いてどんな気分になるか



リラックスできる、落ち着くといった安心するような気分になると過半数以上の人が回答しました。



合唱をすると答えた人が多かったのですが、毎日合唱をすると答えた人はいませんでした。

3 まとめ

このテーマについて調べてみて、音楽については日本と考え方がほとんど一緒だと感じました。音楽を聴いてリラックスできるなどといった意見は、日本人に聞いてみても同じです。合唱は頻繁にしていそうなイメージがありましたが、音楽の授業などでしか合唱をしないそうです。中学生には合唱クラブがあると聞いて、日本の中学生とはほとんど変わりありません。インタビューを通し、一人一人と会話をしてコミュニケーションすることができ楽しかったです。

研修全体を通して感じたことや学んだこと 「人々の優しさと温かさ」

遠野東中学校 2年 佐々木 遥菜

私は今回、海外に行くことが初めてで、楽しみだけちょっと不安な気持ちがありました。でもその不安を吹き飛ばすくらいとても楽しく、充実した日々を過ごすことができました。そして日本との生活スタイルの違い、アメリカの文化にたくさん触れることができました。

長いフライトを終え、アトランタに着いたとき、あと少しでホストファミリーに会えると思うと不安と期待のどちらもありました。CSLA校にきて、寒い中ホストファミリーが出迎えてくれて私たちを歓迎してくれました。不安だった気持ちもホストファミリーが温かく迎えてくれたことで、一気に楽しさになりました。

アメリカに着いて初めて食べた物はパスタでした。量が多いとは聞いていたけど予想以上に多くて驚きました。味付けも濃くて、日本のパスタとは全く違うものでした。土曜日は博物館に行きました。博物館といえば落ち着いているイメージがありましたが、とてもにぎやかでいろいろなものを見たり、作ったりすることができました。日本のコーナーみたいな場所もあり、新鮮な気持ちになりました。日曜日にはショッピングモールに行きました。私が普段行く所よりとても大きくてびっくりしました。ショッピングモールにはアニメショップもあり、日本のアニメのキャラクターやTシャツが売られていて、日本のアニメは人気があると感じました。

平日は、楽しみにしていた学校でした。アメリカの学校は日本と全く違うところがあり、わくわくしました。教室もカラフルで明るい印象がありました。生徒も服装が自由で、化粧をしていたり、髪を染めていたり、アクセサリーをつけていたりして一人一人が自分の個性を出していて、自分らしさを大切にしていると感じました。

各クラスで日本の文化を教えるとき、最初はどうしたらいいかわからなかったし、英語で話さなければならないということもあって積極的に会話が出来ずにいました。それでもCSLA校の生徒たちは私にたくさん質問をしてきてくれて、答えているうちに会話を弾ませることが出来ました。話せずにとまどっている私に対して積極的に話しかけてくれる優しさに気付くことが出来ました。さよならパフォーマンスもたくさん練習した甲斐があって大成功でした。日本語で挨拶を返してくれて覚えていてくれて嬉しかったし、何より一生懸命教えて本当に良かったと感じました。

今回の研修は、とても貴重で充実した期間でした。初めて体験することばかりで毎日がとても楽しかったです。この経験を活かし積極的な行動を取り、周りの人の役に立てるような人になりたいです。いつか自分の成長した姿をホストファミリーに見せることが出来たらいいなと思います。

最後に、教育文化振興財団の皆さん、ホストファミリーの皆さん、CSLA校の皆さんをはじめ、この研修を支えて下さったすべての皆さん、本当にありがとうございました。

チャットニューガの紹介

「ショッピングモール」

いろいろなお店があって、見て歩くだけでも楽しめます。キャンディーショップや日本のアニメのグッズが売っているお店もあるので面白いです。

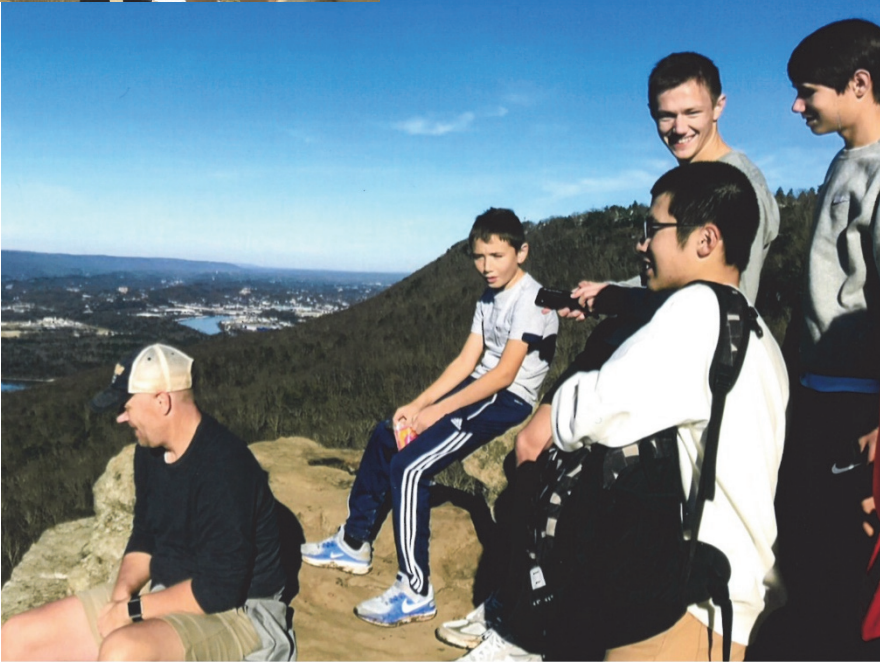




Tsubasa Kikuchi



Rachel & Bob & Alex Bruner Family





1 テーマ設定の理由

このテーマを設定した理由は、自分が読書が好きであるということと、自分の中では、アメリカの人が読書をしているというイメージがなく読書をどのくらいしているのか、どのような本を読んでいるのかということに興味を持ったからです。

2 研修内容と結果

調べた内容

- (1) 何日くらい読書をするのか
- (2) 何分くらい本を読んでいるのか
- (3) どのような本を読んでいるのか

調べる方法

ホストファミリーやCSLA校の生徒へインタビューをする。

(1) 何日くらい読書をするのかについて

毎日読んでいる	13人
一週間に3日くらい読んでいる	9人
一週間に2日くらい読んでいる	5人
二週間に一回くらい読んでいる	3人

あまり読む頻度が多くない人より、一週間の半分くらい読んでいる人のほうが多かった。

(2) 何分くらい本を読んでいるのかについて

1時間くらい読んでいる	1人
40分くらい読んでいる	3人
30分くらい読んでいる	11人
20分くらい読んでいる	5人
10分くらい読んでいる	10人

最低でも10分は読んでいることが分かった。30分くらい読んでいる人、10分くらい読んでいる人が多かった。

(3) どのような本を読んでいるのかについて

アドベンチャー
スポーツ
歴史
ノンフィクション
絵本
アクション

アドベンチャーとアクションが特に人気だった。小さい子供は絵本を読んでいることが分かった。

3 まとめ

自分が思っていたよりも、多い頻度で本を読んでいる人がいました。一週間に三日以上読んでいる人のほうが多いという結果には驚きました。時間では10分くらい読んでいる人、30分くらい読んでいる人が多く、読んでいる本の種類、ジャンルに関しては、男女通じてアドベンチャーや歴史の本は人気。低学年では絵本を読んでいる子が多く日本の子供とあまり変わらないことが分かりました。このインタビューを通して自分のアメリカの人に対するイメージがかなり変わりました。日本にいたら知らなかったかもしれないことを知ることができよかったです。



研修全体を通して感じたことや学んだこと
「五感で感じたアメリカ」

遠野東学校 2年 菊池 翼

今回の研修では、直に人々の優しさ、異文化に触れ、たくさんのことを学ぶことができました。

特に優しさ、コミュニケーションの取り方で感じたことが多かったです。

優しさは、普段のホストファミリーとの生活、CSLAでの学校生活などたくさんの場面で感じました。なるべくわかりやすく考えて質問をしたり説明をしてくれたり、笑顔で接してくれたり、ジェスチャーを交えてくれるなど僕が少しでも理解しやすいように工夫を入れながら会話をしてくれました。

コミュニケーションでは、ゲームやスポーツなどを一緒に楽しむことでよりコミュニケーションをとることができました。共通のものを一緒に楽しむことができれば話題の幅も広がり、深くコミュニケーションが取れるということを感じました。

ホストファミリーと色々なところへ行き、たくさん体験をし、良い思い出をたくさん作ることができました。1つ目は、山へハイキングをしに行ったことです。足場の悪い道を上っていき山頂につきました。とても高い場所で眺めがよかったです。山頂でホストファミリーと食べたナッツやチョコレートはおいしかったです。

2つ目は、家の近くをAlexとAlexの兄弟のSamとNickと散歩をしたことです。近所のゴルフ場などを案内してもらいました。日本の住宅街ではないと思うのでここでも日本とアメリカの違いというものを感じました。また、会った人と挨拶をしたり話をしたりしていてとても仲がいいということも感じました。

3つ目は、サントラスト・パークというアトラクタ・ブレイブスの球場へ連れて行ってもらったことです。ここでは、スタッフの方に他に來ていた何組かの人とスタジアムの見学をしました。

まず初めに、観客席からグラウンドを見ました。大きさにとてもびっくりしました。そのあとにトロフィーなどの展示物を見ました。実際に見る機会はもうあるかわからないので見れてよかったです。

ホストファミリーと過ごした10日間はすごく短く感じました。あっという間に過ぎた研修期間でしたが、充実した楽しい生活を送ることができたと思います。同時に、自分の力不足にも気付くことができたので、今後の人生でまた行くことがあったらもっと力をつけたいと思いました。

しかし、諦めずに伝えようとすれば気持ちは伝わるということを知ることができました。この研修で学んだことを共有し今後に生かしていきたいです。

今回の研修で今後の人生の選択肢を広げることができたと思います。今回ホームステイを引き受けてくれたホストファミリー、引率の利輝さん広美先生をはじめとした派遣に関わってくださった方々、3校から集まったこの9人で行けたことに心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

チャタヌーガの紹介

「ルック・アウト
・マウンテン」

高くて少し怖いものの、チャタヌーガのきれいな景色を見ることができます。

歩く時間は長いですが、途中途中に面白いところがあり、飽きることはありません。絶景を見ることができるすごい場所なので、ぜひ、行ってみたいと思います。



We love Chattanooga! チャタヌーガで学んだこと

遠野市立遠野西中学校 教諭 高橋 広美

今回で3回目となるアメリカ。過去の2回と違うのは、今回は引率者であったことです。ゆえに、「何事もなく皆で無事に帰ってくる」が最重要課題でした。短い期間の滞在でしたが、その内容は濃く、何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

滞在中はホームステイで、CSLA のドーン先生の家庭に滞在しました。ホストファミリーのホスピタリティ精神は素晴らしく、楽しく快適に過ごさせていただきました。家にいるときはなるべくリビングにいて、会話をしました。その内容は、トランプ政権の話題から日本の中学校の様子など様々でした。「ノックノックジョーク」や「チャックノリスジョーク」など楽しいことも教わりました。

CSLA では、授業見学と授業体験をさせていただきました。折り紙と日本の歌、日本語を教えることができました。私はメルボルンの学校で日本語の ALT として働いた経験があったので、昔の自分を思い出しながら研修生の皆さんの様子を見ていました。最初のあたりはもどかしく、横から口出ししたくなりましたが、その気持ちをぐっと抑えてカメラマンに徹しました。ほとんどの人が iPad を使って英語の表現を確かめながら授業を進めていました。さくらさんは頭の中にある英語を総動員しながら必死に伝えようとする姿が素晴らしかったです。あるグループは、折り紙の手裏剣が現地の子供たちに難しいようだと言われ、次のクラスでは簡単なものに変更して教えていました。みんな後半には授業の進め方がかなり上手になっていました。

個人的には CSLA にもっと滞在して、先生方の教え方や授業マネジメント法を見たかったです。6歳児のクラスでは、二人の女の子がペンの取り合いをしていました。喧嘩両成敗となるのかと思いきや、CSLA の先生は、「なぜそのケンカが起こったのか」や「最善の解決法が何なのか」を問い直し、泣いても許さず、自分の口でしっかり話すまで一切の妥協なく向き合っていました。アメリカの子供たちは幼いころから自分の考えを表現できるように鍛えられているのだなと感じました。その他、空き時間には小学2年生の体育の授業にも飛び入り参加をして、体育の先生とトークすることができました。6歳児から中2まで教える体育の先生はすごいなと思いました。チャタヌーガでの経験は、私たちの好奇心や英語学習熱に火をつけてくれたと思います。アメリカではドアを開けるとき、男性がサッと動いて女性をエスコートするレディファースト社会です。日本では違うのだということを言った時に、「なぜ日本の男性はドアを開けてあげないのか」との疑問に十分な説明ができませんでした。新渡戸稲造先生の「武士道」(バイリンガル版)を熟読したいと思います。

また、今回の研修では多くの気づきがありました。それは、日本の良いところです。アメリカは概して「使っては捨てる」という「消費社会」だと感じました。日本人は紙ナプキンでなく台ふきをよく使うこと、食事は残さず食べるようにしつけられていること、「使う前よりきれいにして去る」の精神が日本人のよい点であることを再認識しました。「郷に入っては郷に従え」とは言いますが、研修生のみんなはどう感じたでしょうか。この研修では、アメリカを知ることのみならず、「『日本』や『遠野』の良いところを再認識すること」、「自分の考えを自分で決めて表現できること」の2点ができていたら大きな成長を遂げる第一歩を踏んだと言えるでしょう。今回深めることができた友情や絆をこれからも心の支えとして頑張っていきましょう。そして、「伝えること」「つなぐこと」も大事なミッションであることを忘れずに各方面でそれぞれが活躍していくことを願っています。

今回の研修に関わった全ての皆様に感謝いたします。

ありがとうございました！

ホームステイ先のドーン先生と愛犬ベリイ ➡



Wonderful Days, Wonderful Members.

(一財)遠野市教育文化振興財団 職員 菊池 利輝

ハンマーで頭を「ガツンツ」と叩かれたような、目が覚めるような体験をしてもらいたい。
そして、一生忘れられない、人生の糧になるような 13 日間にしてもらいたい。

私も中学 2 年生の時、海外派遣事業でカナダに 10 日間ほど滞在したことがあります。あの経験は、私の人生に大きな影響を与えてくれました。少年・キクチトシキがそうであったように、今回の派遣生にも、異国の地で Wonderful Days を味わってもらいたい。これが、引率する立場となった、大人・キクチトシキの目標でした。

昨年 4 月、遠野市から遠野市教育文化振興財団に派遣され、本事業の担当をさせていただくことになりました。選考から事前研修、派遣に至るまで、すべての過程に携わる中で、30 年近い歴史を持つ本市とチャタヌーガ市の交流の素晴らしさを再認識。たくさんの方がこの交流を愛していること、そして、この交流は友情とボランティア精神によって育まれていることを知りました。

同時に、自分の力不足も痛感。特に、学生時代に最も得意だったはずの英語は忘却曲線の一途をたどっており、“This is a pen.”すら怪しいレベルに(涙)。慌てて中学時代の教科書を引っ張り出して英語学習を始めました。そんな私ですから、中学生の旅のしおりに掲載した 10 か条(次ページ参照)は、私のための 10 か条でもあったのです。

この事業を無事に終えることができたのは、支えていただいた皆さんのおかげです。一緒に引率いただいた広美先生をはじめ、事前研修で講師を務めていただいた ALT の皆さん、さらに、CSLA 校で受け入れに協力してくださったシンディー先生やホストファミリーの皆さんなど、本当にたくさんの皆さんに支えていただきました。この場を借りて、感謝申し上げます。ありがとうございました。

果たして、チャタヌーガでの日々はどうだったのか。

それは、この報告書を見ていただければ分かると思います。一人ひとりのレポートが、そして無数の写真たちが物語っています。派遣生にとって、Wonderful の連続であったに違いありません。もちろん、私にとってもそうでした。

チャタヌーガは、スケールと繊細さを兼ね備えた美しい都市でした。CSLA 校の、先進的で個性的な教育も刺激的でした。十数年ぶりにホームステイも経験。Shnitzer 家と Franceschi 家の 2 家族にお世話になり、チャタヌーガに暮らす皆さんの心の優しさにも触れました。

さらに、感動したことがあります。それは、現地での派遣生の成長です。緊張と不安を乗り越え、最後は笑顔で交流を楽しむまでに成長した派遣生の姿が目焼き付いています。日本の文化を一生懸命伝えようと努力する姿も素晴らしかった。不安視されていたプレゼンも、最終的には CSLA 校の生徒と巻き込んで堂々と発表しました。彼らのたくましさ、爆発力に元気をもらいました。このメンバーと旅をすることができ、本当に幸せでした。

派遣生にとって、この旅の終わりが、新たな旅の始まりとなることを期待します。チャタヌーガでの Wonderful Days を胸に、それぞれの未来に向かって羽ばたいてください。

ホストスチューデントの
ゲイブ(左)とブルックス➡





Thank you, CSLA !
Thank you, Chattanooga !
Thank you all !



一生忘れられない海外派遣にするための10か条

第1条

世界の共通言語は「英語」じゃなくて「笑顔」だと信じること。

第2条

誰にでも、大きな声であいさつすること。

第3条

恥ずかしがるのが、最も恥ずかしいことだと知ること。

第4条

迷ったら、まずやってみること。

第5条

いつでも飲めるコーラより、
得体のしれない飲み物を注文してみることに。

第6条

話そうとしないこと。伝えようとするに。

第7条

英語は聴くんじゃない、感じるんだ。

第8条

芸人もびっくりするほどの、オーバーリアクションをとること。

第9条

ピンチはチャンス。その緊張感が、あなたを強くする。

第10条

感謝の気持ちを忘れないこと。

さあ、飛び立とう。
新しい自分が待っている。

平成30年度
中学生海外派遣交流事業
報告書

Wonderful Days



The report of the international exchange program for junior high school students 2018.

主催：遠野市姉妹都市等交流事業実行委員会
事務局：一般財団法人遠野市教育文化振興財団
〒028-0524 遠野市新町1番10号
電話：62-6191 FAX：62-6195
HP：<http://tono-ecf.or.jp>
FB：<https://www.facebook.com/tono.e.c.f>

滞在の様子は財団の
フェイスブックページに
も掲載しています。
財団FBのQRコード➡

